

土木学会 地震工学委員会

耐震基準小委員会 第21回委員会 議事録

1. 日 時：平成12年11月22日（水） 15:00～18:00
2. 場 所：司法書士会館
3. 出席者：17名
4. 配付資料：資料21-1 耐震基準小委員会 第20回委員会 議事録（案）

資料21-2 今後のスケジュール

資料21-3 5.8 地盤の応答解析

資料21-4 5.8.4 不整形地盤における応答解析法

資料21-5 6章 地盤の評価

資料21-6 6.4 鉄骨鉄筋コンクリート部材

資料21-7 6.7 支承部

資料21-8 7.1 構造物の応答値の算定

資料21-9 7.2 動的解析法（骨組系モデル）

資料21-10 7.4 所要降伏震度スペクトル法

5. 議事内容：

- (1) 耐基準小委員会 第20回議事録（案）の確認（資料21-1 参照）

第20回委員会 議事録（案）について説明が行われ、その内容が確認された。

・「液化化地盤内における構造物の重量による慣性力は、～」を、「液化化地盤内の側方流動の設計における構造物の重量による慣性力は、～」と修正する。

(2) 今後のスケジュール（資料 21-2 参照）

- ・地震工学委員会の総会が、平成13年4月20日に予定されており、その場で耐震設計ガイドライン（案）を紹介してはどうか。

(3) 土木構造物の耐震設計ガイドライン（案）について（資料 21-3～7 参照）

1) 全般

- ・新しく、「7 安定の評価」を設ける。執筆担当は、以下の通りとする。

7.1 一般 : 西村委員長

7.2 基礎構造物 : 福井委員

7.3 地中構造物 : 松尾委員

- ・ガスの耐震基準では、液状化による浮き上がりの設計について、単なる釣り合い評価だけでなく色々と検討されている。

2) 5.8 地盤の応答解析

- ・不整形地盤では、どのような現象が起こるのか。なぜ、軟弱粘性土地盤、液状化地盤、不整形地盤に分類するのか、記述する。

- ・地震波の入力方法について、位相差の影響など入射角の問題も記述しておく。岩盤上の構造物の場合、問題になる。

3) 6.1 一般、6.2 部材の損傷レベルの照査、6.3 コンクリート部材

- ・安全係数の設定については、構造物係数は8章、構造解析係数は7章、部材係数は6章にて記述する。

- ・非線形解析を行う場合、安全係数は従来の値のままで良いのか。

- ・コンクリート部材の損傷レベルの設定において考慮すべき事象の一つに、力学的特性も加える。損傷レベルは、力学的特性や復旧の難易性を考慮して設定する。

- ・道路橋示方書では、橋脚の非線形特性を、載荷試験等の結果から完全弾塑性モデルにモデル化している。（簡略化して、完全弾塑性モデルとしてるのではない。）

- ・各設計基準で、耐震性能、健全度などの用語の意味合いが異なる。

- ・6章では、部材の損傷レベルまでの内容を記述する。部材の損傷レベルと構造物の耐震性能の関係は、7、8章で記述する。

- ・プレストレストコンクリート部材については、新たに、「6.4 プレストレストコンクリート部材」を設け記述する。

#### 4) 6.4 鉄骨鉄筋コンクリート部材、6.5 C F T部材

- ・「6.5 C F T部材」を「6.5 コンクリート充填鋼管部材」とする。文中では、C F Tと記述する。

- ・道路橋示方書のコンクリート充填橋脚の内容についても紹介する。

#### 5) 6.6 鋼部材

- ・補剛板の幅厚比の規定式については、元文献を参考文献として記述する。

- ・損傷レベルと予想される損傷形態については、コンクリートを充填した場合と、充填しない場合に分けて記述する。

#### 6) 6.7 支承部

- ・ゴムシューの場合、力の照査と変形の照査が必要である。

- ・ゴムのせん断ひずみ量と損傷レベルの関係について検討する。

- ・「6.8 落橋防止」を追加する。

#### (4) その他

- ・次回の小委員会の予定は以下の通りである。

日時：平成12年12月 7日（水）14:00～17:00

以上 記録：沢野嘉延